

第7回義務教育に係る政策研究会（概要）

- 1 日 時 平成18年8月25日（金） 午後2時30分～午後4時30分
- 2 場 所 京都府公館 第5会議室
- 3 配布資料 別添のとおり
- 4 概 要 「義務教育に係る政策研究会」まとめについて

まとめの構成（座長説明・進行）

表題「京都府の義務教育の更なる飛躍に向けて」	
「はじめに」	・・・・・・・・・・ 1 ページ
「教職員の配置等の教育条件整備」	・・・・・・・・・・ 2 ページ
「学校週5日制」	・・・・・・・・・・ 3 ページ
「総合的な学習の時間」	・・・・・・・・・・ 4 ページ
「おわりに」	・・・・・・・・・・ 5 ページ

（ 意見 ・ 関連意見 ）

【表 題】 //
(意見なし)

【はじめに】 //

第5段落に検討テーマを絞った旨の記述があるが、なぜこの3つに絞ったか伝わりにくくはないか。

- ・ 第2段落中で、3つの検討テーマとほぼ対応した現在の課題への認識を示しているためそこで伝わると思う。
- ・ 多くの議論を呼んでいる教育課題の中から「特に重要なもの」という文言を加えるというのはどうか。ただ、「特に重要なもの」とすると他のものは重要ではないのか、と捉えられてしまうかもしれないが。
- ・ 「今日的な」というような言葉はどうか。普遍的な教育課題も数多くある中、この3つのテーマは比較的流行というか、今日的な教育課題であると言えるのではないか。

「土曜日の有効活用」について、全体の表現を統一するため、土曜日に「等」を付け足すべき。

報告書の表題「京都府の義務教育の更なる飛躍に向けて」の文言と整合させるため、第6段落で『更なる』教育の確立～」など、強調語を加えてはどうか。

【議論のまとめ】

テーマを絞った理由

- ・ 基本的には原案どおりとするが、もう少し明確になるような文言を付け加える。

土曜日『等』の有効活用への修正

- ・ 「土曜日等」に変える。

「更なる」の文言を追加すること

- ・ 意見をもとに検討する。

【教職員配置等の教育条件整備】

「学校の課題に応じて学級編制を」とあるが、これは「実態に応じて」ではなく「課題に応じて」なのだろうか。

- ・ 学級編制を弾力化するというのを、課題を解決していくためという意味と捉えて、「課題に応じて」としている方が良いと思う。
- ・ このまとめは現在の実態に応じて学級編制を行うというよりも、克服すべき課題に応じて弾力的に編制するという、より強い意味を持っているのではないか。

「市町村」という表現について、組合教育委員会の立場を考えると、表記をどう扱うべきだろうか。

- ・ 府教育委員会で報告等を出す際にはどうしているのか。
(府教委)
- ・ 議会答弁や報告書等については、丁寧に表現する場合は(組合)などを使っている。本来はそうすべきだとは思いますが、実際には「市町村教育委員会と連携を図りながら～」といった簡潔な形の表現を使っているケースの方が多く状況である。
- ・ 組合の教育委員会、組合の議会は1つの独立した組織だが、(組合)などを付けると非常に事務的な印象が出てくる。
- ・ 本政策研究会の意図としてはこの表現に当然組合も含むのだ、ということをおこの場で共通理解した上で、原案どおりとしてはどうか。

定数配当や教員定数という文言が使われているが、その「定数」の意味がそれぞれ異なると思う。「定数」配当は法律で決められる数を指し、教員「定数」は特色ある学校づくりのために必要な教員の数を指す。整理として、「教員定数」は「教員数」とした方が良いのではないか。

【議論のまとめ】

「課題」と「実態」の整理

- ・ 原案どおりとする。

組合教育委員会の記載

- ・原案どおりとする。
- 「定数」の文言整理
- ・専門用語につき、事務局と調整し判断する。

【学校週5日制】

「様々な取組の推進に当たっては生きる力の育成をねらいとし、その中で～」とある「その中で」という表現は曖昧な印象を受ける。本政策研究会は、土曜日等を活用するに当たっては生きる力の育成をねらいとしつつも、その根幹に関わってくるのは子どもたちの確かな学力である、ということを重要なポイントだと打ち出しているのではないのか。もう少しはっきりする文言が考えられないだろうか。

- ・ 学校週5日制や土曜日等の活用は、子どもに生きる力を身に付けさせていくことを最終的な目標としていると思うので、生きる力の育成を前面に出す形で打ち出す方が良いと思う。
- ・ 「その中で」は必要な文言なのだろうか。「生きる力の育成をねらいとし、学力向上の観点～」と続けていく方がわかりやすいと思う。
- ・ 「その中で」というのは文中の「様々な取組を進める」その過程で、という意味と捉えることができる。
- ・ 原案には、取組を進めるに当たり生きる力の育成をねらいとして、その意識を踏まえた上で学力向上～、という意図があり、従来の土曜日等の在り方を決して全面的に修正するという事ではない。
- ・ 「土曜日等の有効活用」の項目を読めば意図は読みとれる。
- ・ まとめは様々な読み方が出来ると思うが、本政策研究会では基本的に学力は教科学力だけに限ったものではないと捉えている。ただ、実際に生きる力を育成していく上で、基礎的・基本的な学力がきちんとついていないと、例えば図書館1つ活用するにしても内容が浅いものになってしまうという懸念も持っている。
- ・ 「学力」を広く解釈をしても、それを支えるのは教科の「学力」だという共通理解ができればよいと思う。「教科学習」の中では、基礎・基本の学習を行う、補習、補充的な学習も行う、という説明ができるようにした方がよい。
- ・ 京都府の学力診断テスト等の結果、府内全体を見たら点数の分布はゆるやかな曲線だが、個別の学校で見たら支援が必要な子どももいるだろうと考えられる。その子どもたちのためにも土曜日等を使って、きちんと指導していった、という意図がまとめに含まれていると理解をしている。踏み込んだ、思い切った提案になっていると思う。

このまとめの重要なポイントは、土曜日等の有効活用の中で学力向上の観点を明確に位置付ける、という文言をきちんと打ち出したということである。その取組の中身の打ち出しについては、もう少し具体的な文言を入れられればわかりやすくなると思うが、具体的に入れるのは難しいだろうか。

- ・ やはり地域、学校によって事情が違うため難しいのではないかとあてはまる言葉があればよいのだが。
- ・ それぞれ実態が異なることを前提にすれば、あまり具体的なところまで書きにくい。
- ・ 子どもたちの様々な学習活動や体験活動を通して生きる力をはぐくんでいくその中に、従来学力向上という観点が非常に弱かったということは事実である。そこを明確に打ち出すことは大切であるが、その方法については、まとめではなく具体的な意見の中で示した方がよい。

3つ目の の文末に「～考えていかねばならない。」とあるが、これは表現の整理として「考えていく必要がある。」にしてはどうか。

4つ目の の文末の「考えられる。」は単に例示への解説の表現である。何らかの方向性を示す書きぶりにした方がよい。「求められる」という表現がよいのではないかと。

過ごし方のメニューとして3つ「」で括っているが、例えば「読書活動」など具体的なものも加えてはどうか。土曜日等に図書館など地域の施設を活用して、子どもたちに読書の経験をさせることが、実は学力充実の根っこを育てていると思う。

- ・ 「読書活動」を加えると、具体的すぎる。「文化体験活動」に包含されるのではないかと。

例えば「総合的な学習の時間」は教科には入らないので、「教科学習」を「教科等の学習」とする方がよいと思う。

7つ目の の「参加意識がない子」というのは表現は、「～乏しい子」に変える方がよいのではないかと。

- ・ また、「参加意識」ではなく「参加意欲」という表現を学校現場では使っている。

9つ目の の「障害のある子どもも～」の「子どもも」は「子どもが」の方がよい。

【議論のまとめ】

まとめ中の「その中で」関係

- ・ 原案を基本として、意見を踏まえ再度検討する。

まとめへの具体的な活用方策の提示

- ・ 原案どおりとする。

「考えていかねばならない」の修正

- ・表現の統一として「考えていく必要がある」に変える。
- 「考えられる」の解説の表現の修正
 - ・「～が求められる」と、方向性を示す表現に変える。
- 「読書活動」等の記載
 - ・具体的な活動は盛り込まず、原案どおりとする。
- 「参加意識のない子ども」の修正
 - ・「参加意欲の乏しい子ども」に変える。
- 「障害のある子どもも」の修正
 - ・「障害のある子どもが」に変える。

【総合的な学習の時間】

まとめの文章が一文で長々としておりまとまりがない。内容は良いと思うので文章を2つに分け、読みやすくすべきではないか。

- ・まず「総合的な学習の時間を行うに当たっては～が大切」とし、そして「より一層充実するために京都府版ガイドラインが必要である。」とつなげれば良いのではないか。

1つ目の では「児童生徒」という文言が使われているが、他は全て「子どもたち」が使われている。文言を整理すべき。

1つ目の は実態の解説にとどまる文章構成になっている。逆転させ、「総合的な学習の時間のねらいを達成させるには、一人一人の子どもに十分な基礎学力を身に付けさせる必要がある。」といった方向性を示す形にすべき。

2つ目の に「演習」とあるが、「演習」という時間は教育課程上小・中学校にあるのか。

- ・「演習」という時間があるわけではない。教育関係者ならニュアンスはわかると思うが、より正確な用語を用いるべき。

5つ目の の文章も方向性を示す表現にするため、逆転させた書き方にする方が良いと思う。

5つ目の の「地域」は全体の整理として「地域社会」にすべき。

各学校で「総合的な学習の時間」を計画・実施するに当たりその中心的な役割を果たすリーダー、いわゆるコーディネーターの位置付けを考える必要がある。学校を中心になって「総合的な学習の時間」を展開できる力を持った先生を意識的に育成していくことが考えられないか。

- ・「総合的な学習の時間」というのは一人の先生でつくるのではなく、チームワークの下に皆でつくるということである。小学校でもそうであるし、まして中学校ではなおさらである。その時間の中身以上に、中身をつくるためにどういう仕組みが必要か、ということを経験的に学校で考えなければいけない、ということを経験的に取り上げてもらいたい。

10つ目の にある「教科との関連について『強化』するような指針」というのは少し表現が強過ぎるのではないかと思う。

- ・ 京都府版のガイドラインとして、大胆な指針を打ち出してはどうか。
- ・ 「強化する」とことと「明確にする」という表現の方が実態にあっていると思う。教科との関連については不明確だというのが実態であろうと思う。
- ・ 逆に、研究協力校だからこそ可能となるような、あらゆる教科との関連を模索している傾向の学校もある。どちらかという、教科との関連についての研究が深められる指針が必要なのかなと思う。関連が弱い学校もあれば、強すぎる学校もある。適度な関連の仕方が学校にとって継続性もあり、望ましい形だと思う。

【議論のまとめ】

まとめについて

- ・ 内容は変えずに二文に分ける。

「児童生徒」の修正

- ・ 全体と統一し「子ども」に変える。

実態を解説した文章の修正（2箇所）

- ・ 内容は変えず、方向性を示す文章に変える。

「演習」という用語について

- ・ よりよい表現を事務局と検討する。

「地域」の修正

- ・ 全体と統一し「地域社会」に変える。

「総合的な学習の時間」のコーディネーターの位置付け

- ・ 「 京都府が目指す『総合的な学習の時間』の指針について」の項目に追加する。

教科との関連の「強化」の表現について

- ・ 関連が明確になるような指針が必要である、という表現に変える。

【おわりに】

第3段落「少なくとも先の3つのテーマについては～」の部分「少なくとも学力向上に関わる先の3つのテーマについて」とするのはどうか。

- ・ 教職員配置等についてのテーマは直接的には学力充実と関連はないのではないか。
- ・ 「はじめに」の議論で今日的な教育課題の流れという意見が出ていたので、統一するなら「少なくとも今日的な教育課題に対応する先の3つのテーマについては」という文章としてはどうか。

第4段落「各学校・地域」の地域は、地域社会とはせず、このままでよいと思う。これはそれぞれの地域のことを表している。

「学校評価制度」だが、これは「教職員評価」と車の両輪と捉えられている。「教職員評価」も連記してはどうか。

第5段落「京都府教育委員会におかれては子どもたちがこのような生きる力を身に付け～」で「このような」という表現を使っているが、ここだけを読むとこの言葉がどう捉えられるか不確かである。本政策研究会は平成8年の中央教育審議会の第1次答申で示された「生きる力」を土台にして、さらにそれに付け加える形で議論をしていたので、そのような議論を踏まえた「生きる力」として整理すべきと思う。

- ・ 「このような」は除き、「生きる力を確実に身に付け～」という表現はどうか。

「生き生きと活力ある活動～」で「活動」とあるが、より具体的に学校週5日制で議論した、学習活動や体験活動について触れてはどうか。

最後の結びの文章では、やはりテーマである義務教育に直接携わる市町村教育委員会との連携を図る等の文章を加えておくべきである。

【議論のまとめ】

「3つのテーマ」について

- ・ 3つのテーマを選んだ理由がより明確になるような表現に変える。

「地域」について

- ・ 実際の各地域を指す表現のため、原案どおりとする。

「学校評価制度」について

- ・ 意見を踏まえて修正する。

最終段落について

- ・ 「このような」は削除する。
- ・ 「活動」を「学習活動や体験活動」に変える。
- ・ 市町村教育委員会との連携について記載する。

【最後に座長より】

文章表現で一部まだ固めていない部分もあるが、その文言整理も含め原案の修正をこちらでさせていただく。最終的にもう一度各委員に確認していただくが、本日欠席された委員の意見も踏まえて原案を修正させていただくので、まとめの修正及び精査については一任いただきたい。(異議なし)